

平成22年度特別支援学校医療的ケア実施体制状況調査結果について（抄）

1. 調査期日
平成22年5月1日
2. 調査対象
公立の特別支援学校
3. 調査項目
 - ①日常的に医療的ケアが必要な幼児児童生徒数
 - ②行為別対象幼児児童生徒数
 - ③医療的ケアに対応する看護師数及び教員数
 - ④各都道府県及び指定都市における実施体制
 - ⑤実施体制整備上の課題
4. 調査結果の概要
 - (1) 対象幼児児童生徒数（調査結果（1）、（4）参照）
全在籍者に対する割合は6.3%であり、前年度とほぼ同じ水準である。
各部別では、幼稚部3.2%（対前年比0.2%増）、小学部10.4%（対前年比0.2%増）、
中学部6.5%（前年と同率）、高等部3.4%（対前年比0.1%増）となっている。
 - (2) 行為別対象幼児児童生徒数（調査結果（2）参照）
7,306名の幼児児童生徒が、延べ18,411件の医療的ケアを必要としており、平成21年
度に比べ782件増加している。一人で複数のケアを必要とする幼児児童生徒が多い
状況である。
行為別に見ると、延べ件数のうち、たんの吸引等呼吸器関係が66.8%、経管栄養
等栄養関係が25.9%、導尿が2.4%、その他が4.9%であり、このうち鼻腔に留置さ
れている管からの栄養注入など教員に許容されている行為は41.0%であった。
 - (3) 幼児児童生徒数・看護師数等の推移（調査結果（3）参照）
全国の公立特別支援学校において、日常的に医療的ケアが必要な幼児児童生徒は
7,306名であり、平成21年度より325名増加した。医療的ケアに対応するため、総計
1,050人の看護師が特別支援学校に配置されている。軽微なケアの一部は、看護師
の具体的な指示の下に研修を受けた教員が行っており、医療的ケアを行っている教
員は3,772人であった。平成21年度に比べ、看護師は125人、教員は252人増加して
いる。

調査結果

(1) 対象幼児児童生徒数

区分	医療的ケアが必要な幼児児童生徒数(名)				合計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部※1	
通学生	48	2,714	1,246	1,235	5,243
訪問教育(家庭)	0	582	295	231	1,108
訪問教育(施設)	0	163	85	175	423
訪問教育(病院)	0	237	111	184	532
合計	48	3,696	1,737	1,825	7,306
在籍者数(名)※2	1,484	34,891	26,707	53,592	116,674
割合(%)	3.2%	10.6%	6.5%	3.4%	6.3%
【参考】21年度割合(%)	3.0%	10.4%	6.5%	3.3%	6.2%

※1 高等部の専攻科は除く。

※2 平成22年度学校基本調査による。

(2) 行為別対象幼児児童生徒数

医療的ケア項目		計(名)	割合(%)
栄養	●経管栄養(鼻腔に留置されている管からの注入)	2,219	25.9%
	●経管栄養(胃ろう)	2,310	
	●経管栄養(腸ろう)	98	
	経管栄養(口腔ネラトン法)	97	
	I V H中心静脈栄養	49	
	小計	4,773	
呼吸	●口腔・鼻腔内吸引(咽頭より手前まで)	2,928	66.8%
	口腔・鼻腔内吸引(咽頭より奥の気道)	1,953	
	経鼻咽頭エアウェイ内吸引	135	
	気管切開部(気管カニューレより)からの吸引	1,878	
	気管切開部の衛生管理	1,754	
	ネブライザー等による薬液(気管支拡張剤等)吸入	1,702	
	経鼻咽頭エアウェイの装着	155	
	酸素療法	1,030	
	人工呼吸器の使用	763	
	小計	12,298	
排泄	導尿(介助)	434	2.4%
その他		906	4.9%
合計(延人数)		18,411	100.0%
医療的ケアが必要な幼児児童生徒数		7,306	

※ ●は教員が行うことを許容されている医療的ケア項目である。

(3) 幼児児童生徒数・看護師数等の推移

対象等 年度	医療的ケア対象幼児児童生徒		看護師数(名)	教員数(名)
	在籍校数(校)	幼児児童生徒数(名)		
17年度	542	5,824	597	2,769
18年度	553	5,901	707	2,738
19年度	553	6,136	853	3,076
20年度	580	6,623	893	3,442
21年度	622	6,981	925	3,520
22年度	626	7,306	1,050	3,772